

# ハストス週報

第1392号  
昭和四十八年  
十二月十四日  
月曜日発行  
Director  
Koiki Mori  
Redator,  
Shion Oda  
Rua. Pres.  
Vargas 188  
C. Post. 112  
Fone 40  
BASTOS  
C. P.  
Annual  
Cr. 45.00  
Adiant.

## 水紋 52 年暮るる

世界中をゆさぶるような事件の相次ぐ年であったが、その年もあと一週間にして過ぎ去ろうとしている。

石油は現代のあらゆる面で、いかに重要な役割を占めているか、こんど改めて見直され、今更のようになり、その重要性を認識させられたことはなかっただ、世界中が産油国の OPEC アラブ石油機構に振り回されて目を白黒させ、泡を吹いた顔は、写真に撮っておきたか、た程だ。

今や世界各国から、代表者団が、アラブ諸国の礼拝にそろそろ繰り出してきている。全く今やアラブの天下である。アラブがクシャミをすれば、日本の感肩は連想と直る。アラブの様子は忠臣蔵の「高の嶺」直のように、えげりくこつていり、向うが鍵を握っているから、どうすることもできない。

石油が欲しければ、イスラエルと断交しなさい。それはこ無理と申すもの。ああ、そうか、それなら売って上げませぬわい。よわったな。技術提供？資金提供？などいかがでござる。そんな子供だましみたいな、いりまへん。おことわりや。日本代表三木特使とアラビ首魁の腕角力、どだい勝負にならぬ。

こういう鏡算材の古い国際劇をタグで見せてもらう、というのも、本年のブレミオとていうことであらうか。

それにしては石油一手で、イスラエルの首の根、子を押し上げた芸は、中々のものである。

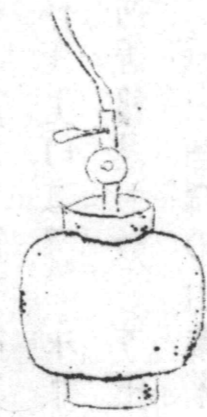
イスラエルが占領地から撤兵するか、アメリカがそれを保証するなら、石油供給は元の通りに復活する、などとマニシ A 石油相しゃあしやあとしたものだ。

イスラエルが早く撤兵すれば、世界中が OPEC に振り回わされずすんだもの、の、今のイスラエルのタマン国防相は、今ごろになつて、占領地の一部を返還する用意ありなどと、これもしゃあしやあしたものである。

イスラエルは速やかに返還には動かさないだろう。するとアラブはじわじわと、国を石油で絞めあげ、石油必要国は

## 年末年始の贈答品

セルベージマ・グリラナー・ファンタ  
コーフ等清涼飲料水の一切、  
お正月の食卓を飾る日本物食品



## CASA TARODA

優秀なパウリスタ ガス  
シンセーブル 高圧高級ミシン  
ガスフオーゴン各種  
冷蔵庫いろいろ  
高級陶磁器類、ガラス食器等

スベルメルカード

## 太郎の屋嘉嘉五門

電話 十六番

あまりかねて、イスラエルの尻を叩くであろう。アメリカも面子をぬいでイスラエルの諷刺にかかるとであろう。おもしろいな、この芝居？

## 「ナタール」

キリストの生れたのは、中東紛争で、もめ抜いているイスラエル（南部ユダヤ）のベツレヘムという村落で、一九七四年前に誕生したというのである。当時のユダヤは、北部のイスラエルもろともパピロニアによって亡国の憂き目にあい、更にパピロニアはローマに征服されたため、イスラエルはローマの支配下にあった。ユダヤはヘロデ、という民族の王様が居り、これがローマ帝国によって繰返されてきた。

外国勢力の圧政下で、ユダヤ人たちは自立を望んだ。当時ユダマ国には、天帝の恩恵としてユダマを独立せしめる王が現れる。即ち救世王これなり、という思想が根づいて、キリスト（救世主）の降誕を、今やおそくと待ち望んでいたところからキリストは現世の帝王で

か。精神界の王者だった。しかし形の上ではナザレ村の大工ジョアキンの子として育つて来たのだ。ユダヤ人たちの持ち味のそんなキリストのイメジとはおおよそ異なった長髪の一青年に過ぎなかつたのである。

「何んだ、彼は大工の子じゃねえか」と、失望したのも無理はない。彼は大工をやめて三十歳になると、それ迄福音を傾けて勉強した形式にはまったユダヤ教から一歩抜きんでた新しい宗教を彼自身「神の子イエズス、キリスト」と名乗り、布教するに列って、ユダヤ教徒との間に「ごたごた」がはじまったのである。

このキリスト誕生を記念して祝賀するの「ナタール」だ。今や世界はキリスト教国であろうと、なかりとうと、世界の祝祭日として、ナタールを祝っている。固い信仰に燃えてキリストの誕生をことごとく者もあろうし、新年の御慶と抱き合つて慶祝する者、ウイスキーで祝い、バイレで祝い、ブラジルのナタールも、カルナバル並になつて来たようだ。

「アフリカから、アフリカ人が持ち込んだ宗教や文化も早くブラジル人間に受け込んで、色々な形で再現しつつあるように、日本移民が持ち込んだ東洋文化や宗教なども、まだ咀嚼中のものもあるが、だいたいぶんこなれて、ブラジル化しつつあるものもある。日本舞踊、盆踊りなど、さまざまな経路でナタールと結びついていようか有様にも見える。ヨーロッパにも流れこまず、ブラジルに培われたことは、文化移動の歴史的立場からいっても興味ある問題であると思う。」

# 柔道教授

## バストス柔道場

- 1 幼年の内から柔道を習わせませう。
- 2 柔道は礼儀を重んじるスポーツです
- 3 柔道を習って身心の鍛練をけいませう。



師範 二段

馬久場 卯一郎

### Organização Rio Branco S/C ADVOCACIA CONTABILIDADE E DESPACHOS

法律 御相談

○ 仕用人の雇庸に際し契約書を  
を確実にしておくこと。  
○ 後日問題が起きない様にす  
るには、合法的契約書が大  
切であります。

労働法・民事・刑事法  
会計事務一切

農家でも帳簿は合法的に、  
一切は当事務所へ御相談ください

プレシテンテ ヴアルガス街一八九

Dr. 石川雅宏

Dr. 小林平行

郵函一〇三番  
電話一〇五番  
一八〇番

### 移転 御挨拶

私儀、四十一年の永きに亘り御地に  
居住し、皆様方に御世話になつて参  
りました。此の度家庭の都合上、  
聖市移転することになり、去る十二  
月十六日退植致しました。

出発に際しましては皆様より送別会  
並びに御餞別を頂き、御芳情誠に有  
難く厚く御礼申し上げます。永年御世  
話になり、何等報恩も致さず出発致  
しました。只々皆様の御繁栄と、  
御健康を祈念し、御別れの御挨拶と  
致します。

追而、後便にて住所を御知らせし  
ますれば、従前通り御厚誼の程懇願致  
します。

一九七三年 十二月十六日

田中 聖

バストス存任各位

# 日語校落成

長いこと懸案となつていたバストス日語校は、会長中浦三司並びに役員の方々のよりよかぬて講入してあつた生長の家会館の西隣り、小沢、中浦両氏所有地に建築工事を起し、去る十二月十六日午前十時イナグラソンを行つた。

此の校舍建築費は有志の寄附によるもので、総額六万八千二百八十六クルピロス。内建築費五万四千八百クルピロス。その他暖房など二千六百二十二クルピロス。差引一万三千六百四十四クルピロス。剰余金が出たので、これを幼児の運動具並に教材に当てることになつた由。

尚土地建物はバストス文化協会に一切を寄附し、経営は従前通り、日語普及会が行ふこととなる。

中浦会長の開会の辭、守屋氏の会計報告、小茂田、真木論吉前会長祝詞等あり、式後小沢氏の好意によりシユラスコを提供し、来会者一同をもてなした。

## 水道代未納者へ

フレフエイツラ水道課では、水道使用料未払の方が多いため、水道の仕事が進みませんので、此の際至急お仕払いねがいます。

(水道課は独立会計となつております)

水道メータをつけらるることになりました。古いカバレットは御返し下さい。不明の点は水道課へ御出で下さい。詳しく説明いたします。

(メータ)代はプレスタッソンです)

敬 弔  
吉 浦 秀 次 郎 様

御貴殿生前の御功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。此の度び懇志納のつれ当院では過去帳収として永代御給仕申上げます。

バストス 南米本願寺  
バストス 仏教婦人会

吉 浦 悟 様

敬 弔

故 荻原ユキ 様

右御死去の節、金一封を納められ謹んで哀悼の意を表して過去帳収めとして、寺で永代御給仕申上げます。

バストス 南米本願寺  
バストス 仏教婦人会

荻原 弘 太 郎 様

金 一 封 御 礼

故 吉浦秀次郎御逝去の節香奠返しのためとして右の御寄附にあすかりました。厚く御礼申上げます。

吉 浦 家 様  
グロリアニ男女青年団

## 恍惚の人

33

「うん、確かに勝負好きの男は呆りない。俺の爺さんは暮が好さだ。たせいかな、地主だったから何もしなないで一生を送ったんだが、縁先までパチリパチリやっていて、九十になつても巻碌していなかつたし。」

「精原常務はゴルフまやらない仕事の虫だ。たかつたな。」

「また振り出しに戻つたな。」

「みんな女なく笑いあい、もう解散しようということになつて地上へタクシーを拾いの上つてみると犬雪になつていた。飲んだのに酔つていないという妙な状態だ。たから、こんな時間があった。これは思ひなかつたので、みんな深刻な老入問題よりも当面のタクシー探しに熱中した。地下鉄はとっくに終つていたから、仏頂面のタクシー運転手を拝み倒し、足許を見て吹きかけてくる法外な値段にも最後には目を睨んで乗らなければならなかつた。しかも雪が深いから狭い道には入れないと言う。信利は同じ方面に帰る同僚と二人で一台のタクシーに乗った。が、走り出して腕時計を見ると二時近くになつていて、こんな長時間になつてるとは思ひなかつたと言うと、相手を打つように植原さんが呆けてるとは思ひませんでした。あの人はずっと一旗あげる気だと思つていたんですが、人間とは分らんもんですと

と続ける。そこで思いきって信利が、実  
は父親が八十四歳でと打ち明けると、相  
手はまるで待っていたように、自分の方  
の愚痴をこぼした。  
「家ではお袋が寝たきりで、弱々てろん  
ですよ。親爺が死んだ途端に呆けまして  
ね、そろそろドンだよ。とか、ガス燈の  
つく時間だとか、言うことがみんか大正  
時代の話になりまして。百元をギサと言  
って、孫には百元を千り紙にひねって  
れるんです。まあ、そんなところは愛嬌  
なんですよ。そのうちに腰が抜けて、へ  
ルニアですが、もう癒らないと言うんで  
、テレビを枕許に置いてたんですが、だ  
んだんだらマと現実の心境がつかなく  
って、妙な男が画面に映ると泥棒だ、人  
殺しだ。妄想ですか。悲鳴をあげるも  
んですから、女房が気違い一人抱えて  
みたいた。ここぼすんで、動けない  
のが、なんとも哀れですが、一緒に暮し  
てると女房も気が立って、くるんでしよ  
う。家で家庭崩壊の一步手前です。夫婦  
喧嘩が深刻になりました。お袋が死ぬの  
と我々の離婚とどっちが先になるかと  
考えることがありますな。老人ホームも  
寝たきり老人というのは引受けてくれま  
せんのでねえし」

ESCRITÓRIO BASTOS DE CONTABILIDADE DE  
NOBORU SHIMAMOTO  
RUA, PRESIDENTE VARGAS, 327 - BASTOS - SP

登記の方々の外国人登録が出来ましたから御知らせ致します。島本 争務所

- |                  |                  |                     |
|------------------|------------------|---------------------|
| AKI IWASAKI      | SEIICHI TAKEUCHI | AIKO MIKI           |
| NASHACHI NIHEI   | SANAE TAKACHIKA  | TOSHIKO MUNAKATA    |
| MIWA TAKGY       | SACHIKO NAKA     | YONEKICHI SEKIGUCHI |
| YUMI NAKAZAKI    | SADAO TAKIMOTO   | YOSHIHEDE MOMOSE    |
| TOMIKO AIKAWA    | SACHIKO KAWAKAMI | MASAYUKI GOTO       |
| TERUO YAMASHITA  | BEN SUZUKI       | SEI KISARA          |
| TSUNEO YOSHIKAWA | FUMIE FURUTANI   | MITSUE TAKACHIKA    |
| TAKEO TAKEDA     | TOSHIKO OKUDA    | OSAMU MINAGUCHI     |
| TOSAKU SUZUKI    | TOMOKO SASAKI    | ASANO TAKACHIKA     |
| MISAWA FUKUMORI  | CHIE SATO        | YOSHIO TOGAWA       |
| SHIGEO SHIBATA   | TAMIHITO TAKEDA  |                     |
| YUKIE UEHARA     | GENTARO AOKI     | 以上三十四名              |

「ほう、老人ホームは引受けたいですか  
「そうなんです。心身健康というのが  
資格なんだそうです。うちのお袋は心身  
どちらも不健康ですから、女房は、ああ  
ならないように今から腰を鍛えておくん  
だと言って、僕が家にいる日曜はボーリ  
ングに行ってます。そうやって発散して  
いかないことにはお袋のせよ。うかなあ  
こんな話で、あつという間に車は青梅  
街道を走って五日市街道の曲角で止り  
、この先さばもう入れないと言われ、こ  
うので、信利が先きに降り、車代を割力  
ンにした。  
雪は厚く降り積もっていて、道は明るか  
つたが、靴の裏にたろまち雪がついて一  
足ごとに滑って歩きにくい。信利は酔い  
ざめの上、先刻までの話を思い出して  
は、一層寒さおとしていた。雪だ、お袋の  
死んだ日も雪が降っていた、と彼も思い  
出した。  
ようやく家に降りついて、玄関のべル  
を押したが、誰も開けに来ない。昭子が  
怒って不貞寝しているのだろうか。寝たき  
り老人を犯えて家庭崩壊の一步手前だと、  
たつた今別れた同僚が言っていたのを思  
い出し、信利は定期入れに下りてある鍵  
を出して扉を開けた。部屋の中は、鈍い  
蛍光灯の下で二枚の夜具がもぬけの敷に  
放してあった。庭に面した雨戸が一枚開

信利は両手をこすりながら、何気なく  
庭の方を覗きに行くと、彼の父と妻が庭  
に抱き合っているのを見て、抱き合  
な。か。が。彼らは抱き合っている  
向うを向っている。長身の背後から抱  
は。昭子が背後から支えていたのだ。二人  
とも無言で、我造の足許から消え、ほと  
ほと先に、白い雪が消え、ほとほと  
う音と共に次第に、芭蕉の句に、旅先で馬  
く現われていた。芭蕉の句に、旅先で馬  
の尿を聞くというのがある。老人の尿が地  
に穿つた小さな穴は、まるで深い深い  
黒の淵のように見えた。  
我造の小用が終ると信利は反射的に身  
を翻して階段を駆け上った。こんなこと  
を毎晩させていたのかと思うと、妻に合  
せる顔が打かつた。第一また警察へ突き出  
見たくなく、第一また警察へ突き出  
せと喚かれた。第一また警察へ突き出  
を脱ぎ、寝巻と着替えた。第一また警察へ突  
たが、思い出せないうのだから、奥の細道にあ  
つた。お袋が死んだ。お袋が死んだ。お袋  
つた。お袋が死んだ。お袋が死んだ。お袋  
つた。お袋が死んだ。お袋が死んだ。お袋

どちらも芭蕉の句だけけれども、実盛が白髪を染めて奮戦し討死したのを詠んだ、むざんやの句はともかく、雪をかばうす南谷は、今見た情景とは無縁であるべきで、この場合の雪は、雪を頂く遠山の雪で、季は初夏だから薫ると言う言葉が続くのであるのに、今見たばかりの雪と小使からの連想でこの句を思い出したのだとしたら、青年期に俳諧の道にいそしんだのも水の泡というものだ。しかし若い頃には芭蕉などすぐすらすらと思いついたのに、どうしてあの有名な句が出てこないのか。

ベッドに入る前に、信利は罌子に声をかけておくべきだと思つた。あれだけの妻の苦勞に、何か一言の挨拶はするべきだと思つたのは、彼の口から出た言葉は、「おい罌子、帰って来るぞ」というふうな、さう棒なものでした。しかし、この不器用な日本男子に、妻は予想外の明るい返事を送つてよこした。

「まあ、要領のいい人ねえ」

「すまん、いっつも」

「あら、見たの」

信利はその問いには答えず、布団にもぐり込んだ。その弾みに「蚤虱馬の尿する枕もと」を思い出した。「奥の細道」出羽の山中の宿の佇しさをよんだものである。思い出して安堵した瞬間、信利は愕然とした。通年、彼は物忘れがひどい。思い出すのに時間がかかる。若いときは、決してこんなことがなかった。記憶力には自信があつた。こうして物の弾みに思い出すというのは、我造が突然昔のこととを思い出して、老馬が馬に驚かされたと言いつつ出したのと同じ老花現象ではないか。信利は思わず半身を起して、何か幻聴を聞いたような不安に襲われていた。

私たちが、もう始まつていろのかしらと妻が言ったのも思い出す。度忘れとか、物忘れというけれど、これはもう老花の前駆症状ではないのか。いや、老花現象そのものではないのか。

膝下で罌子が、夫が二階から怒鳴る。うしろで言つた「すまん、いっつも」を耳の中で反芻し、日中のいら立ちを解消させた。この一言を、この二か月と、そのの行ちに待つていたのだという気がする。夫は知つていた。少くとも今夜は雪の降る中で男を支えて小用を足させているところを彼は見たに違いない。「すまん、いっつも」のぶ、さう棒な言葉の持つ、これかくしと、心苦しこと感謝の入りまじつた響きは何だらう。罌子は枕に顔を伏せて、隣寢が奏でる子守り唄のように夫の言葉を聞かながら、やがて安らかな寝息を立てていた。

以下次号へ 著者 有吉佐和子

### ◎ 整 体 術 と は

読んで字の如く体を整える方法です。頭のこっぺんから爪先さまで、血の巡還をよくする術であります。頭痛。神経痛。不眠症。足腰の痛み。ピンツク等血の巡還からくる病氣一切が全快します。一度お試し下さい。

新刊『河野室が出来ました。』  
昼夜アテンデして居ります。  
ルア・マレンシャルフロリアーノ二四九

### 積 は や の

電話 三六九番

<p>金 一封 御 礼</p> <p>御身文致吉浦秀次郎様の香典返しとして頂戴致しました。厚く御礼申し上げます。</p> <p>吉 浦 家 様</p> <p>バストス 柔道部</p>	<p>金 一封 御 礼</p> <p>故吉浦秀次郎様御逝去の御礼の御寄附にござります。また、厚く御礼申し上げます。</p> <p>南 伯 村 一 同</p> <p>吉 浦 家 様</p>	<p>金 一封 御 礼</p> <p>御身文致吉浦秀次郎氏御逝去の御寄附にござります。また、厚く御礼申し上げます。</p> <p>吉 浦 家 様</p> <p>グロリアⅡ区</p>	<p>金 一封 御 礼</p> <p>故吉浦様の香典返しとして御寄附いただきました。厚く御礼申し上げます。</p> <p>吉 浦 家 様</p> <p>グロリアⅠ区第三組</p>
---	---	--	---

# SHOW BACK-DAY

伯光團映画ショー五周年記念

尾上菊若一行大興行

来る一月三日(六)午後三時及び夜八時

シネバストスに於て昼夜二回興行

## 伯光團ショーの部

- 1 蛇姫様 尾上菊子
- 2 香港セレナーテ 尾上菊千代
- 3 女飛車角 尾上菊助
- 4 若者の帽子 尾上菊二郎
- 5 宮本武蔵 尾上菊若
- 6 馬っこ先生 尾上菊子
- 7 星影のワルツ 尾上菊助、尾上菊千代
- 8 やくざ若衆祭唄 尾上菊二郎
- 9 うちの女房にやひげがある 尾上菊若
- 10 若い銀座 尾上菊助、尾上菊千代、尾上菊子

松竹映画超大作 絶天然色 巨匠渡辺邦男監督力作 松竹流優総出演  
 シ荒海にいとむ男一匹、高田浩吉、桂城三智子、森美樹、中村玉緒

時代劇 **紀の國屋文左衛門**

男の鉄の魂と、女の恋情を極く興奮と感涙の海洋三幕篇、御一家お揃いでお楽しみ下さい

記念興行につき七十歳以上の方マテ無料御招待

○入場料、ハクルゼロス均一(他市では十クルゼロスです)

尚、本年は入場券の前売と、席の又メラードを廃止致しました。  
 また、敬老会の方にも招待券は差上げませんが受付へ申出て下  
 さればハッテを付けて敬老席へ御案内申上げます。但し、夜の  
 部には敬老席はありませんので御注意申します。

# 夏ほけ昔物語

濺 仙人 (1)

昔、一休と云う皮肉な坊主は正月を冥土の旅の一里塚とぬかしたが、考えてみればその通りで、自分も知らぬ間に目出度もあり、目出度もなし、七寸の坂を越した。

段々恍惚の人々に近づいて来たので、ぼけてしまわぬ中ちに、あやしい記憶をたどりながら五十年の生活を再現してみよう。

これは、移民史の主流から外れた側面の一頁であり、文筆業界の裏話でもある。私が着伯したのは大正十一年、即ち、一九二二年五月、年齢二十歳、單身自由渡航で、まるで徴兵忌避で、ブラジルへ逃げ出したと思われても仕方がない年齢であつた。

昔、アメリカに渡航した青少年はスクール、ボーイとして家庭奉公をしながら通学したように、ブラジルでもそれが出稼出来た。あの二分制限案なるものは今来ると思つていたら、此の国ではそんなヨソとしたまのようであつたが、波紋は時間を与えられず、仕方なしにパンの為の歴史の齒車を狂わせる程重大な結果をまにありついた。仕事は、ブラジル時報社の活字ケースの書替の請負仕事で、それがすんでそのまゝ活字拾いをして月給をもらつていた。

社長黒石氏の官僚主義的な社風に合はず、白伯新聞に転じた。この三浦社長は黒石氏とは性格が反対で黒石氏を偽善者としすれば、三浦氏を偽悪者と評すべきだろう。

後年、三浦社長が、その鋭い筆のうらみのある連中が謀略で国外追放になり、戦時中、東京の永田刀行会長宅で死した。だが、永田会長は神の使徒の如き人格者であることは、私も刀行会員であるから、知つてゐるし、三浦社長は正反対に悪魔的人物であつたが、人間性に於て両極端は相通するものがあるようだ。

永田会長は生前南米に四回巡遊したが、第一回の旅行の時から此の両者は意気投合した様子であつた。私はこの両先輩に付えたので、二人の人柄から、その共闘の点をさがすなら独立独歩の自由人で、海外渡航を叫ぶ刀行会長が、サンパウロで論客の三浦社長と北米の東洋移民閣出しの悪法を罵倒したのであることは想像出来る。あの二分制限案なるものは今歴史の齒車を狂わせる程重大な結果をまねいた。比米に移住する筈であつた後統部隊は、その進路をブラジルに転じ、ブラジル為政者の温情と賢明は、日本移民を歓迎することによつて、ブラジルを南

こちらには

梶田商店でございます。

毎度の御引立、誠に有難うございます。

ナタール。お正月に付きものの

ベビーダ類多量に入荷致しました

ガラナ・ファンタ・コツカ・クルシユ

セルベージュマ・日本酒

味の素、計り売り特価販売

多少にかかわらず御用命の程願ひ上げます

アマテルテハイロウス街三三三番地

梶田商店

電話 二二八番

# CASA KAJITA

Rua Ademar de Barros 333. Fone 36 Bastos

ホーの産業園に発展させたと思ふのは過言ではないかろう。

一方北米の与えた移民法の屈辱は、國民感情の爆発によつて太平洋戦争の遠因になつたと見るのは素人の無智だらうが、あの当時、北米のかりフォルニヤから帰国してブラジルに再移住を計画する同胞は多かつた。北米居住に失望した人達多数を力行会で斡旋して、ブラジルに再移住させたが、その人達は資金は有つたから、珈琲園卒業者のような苦勞なしに土地を購入することが出来た。優等生が転校して来たようなものだから、言葉の勉強だけすればよかつた。

若し五十年前の日伯新聞を保存して、ある人があれば、或日の社説に、「目下アメリカの太平洋艦隊が演習の爲め真珠湾に集結しているから、それにより意打ちをかけるべきだ」と、堂々と書いた記事を見出すだらう。活字を拾ひながら、痛快でもあつたが、ちよつと心算もした。

時代が流れて、太平洋戦争の幕開が事実その通りになつたのだから、前中した先見の明はおそろしい。

三浦社長が半年がかりでアマゾンの徒歩旅行から帰つて来たの話に、どうも酒がほしくなつて我慢出来なくなつたから

お寺に行つて、バードレかう御馳走してもうつたそうに、酒場に行かず、お寺で秘蔵の美酒を発見するとは、まさにノーマン・ロウに倣はする。

齒一衣を著さず、勝手に論評するので右伯の大侵や総領事かけむたがるのは無理もなかつた。自然に競争紙のブラジル時報が先官僚に接近して、世渡り上手に御用新聞化して行つた。石黒社長の本心は、そうでなくても、日伯にたかれぬ被害妄想の連中が競争意識をあふたかも知れぬ。

五十年前の日本人社会に二つの異質の新聞があつたことは、一般には幸福打とであつたと思われぬ。出先官憲も移住者も、双方で牽制し合つて揃ひ体勢の出来ぬ時運が生れたのは、かと思へる。

あの頃二十代の我々は新天地に思つた合羽をのびして自由の空気に満足して、たから、年輩の苦方も反撥も関知するところではなかつた。

新聞は両方共、週に一回で、金曜日が発行日であつた。石黒社長は越後日から社説を書き始め、三回位校正して、や、と発行に間に合つた。筆の運びがおそかつたが、三浦社長の方針、不曜日に出社して、七層でパソコンをあふつてピンが飲みながら一氣に書きなぐつてしまつた。

一月六日(日)午後七時

綜合会館に於て

子場バレー団

新作をひっさげて再び来演ノ

一部・二部・三部

踊り子 四十五名

裏方 十一名

大座

主催 バストス文化協会

各位

GRANJA HIYO LTDA

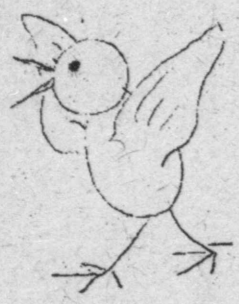
エコライオン

岩谷系代表的種鶏

エコライオンは

二年つづけて多数産卵します  
(二年目に強制換羽いたします)  
と前年より利益が上ります。

岩谷鶏は産卵率が高いので有名



バストス地方代理人

工場ルア アントニオ ショアマン ニニ五番地

レナット 福龍

(アラミンコ製造所)  
電話百三三六九番



書き終えてニクニク笑って居る日は、きまつたよきに續續解か権力者の悪口であつた。彼はよくコラム欄に、須田町人の筆名で寸評を書いたが、文法を無視した方言をわざと使うので、一べん訂正したら、又校正やり直しを命ぜられた。松玉に上げられる気持はさぞの方がよけいこたえる心理作戦だと気が附いた。

俗氣充分で、頭の回転は早かつた。筆名の由来は、彼の人相が須田町のようにゴチゴチ、ゴチゴチした悪相であつたので、誰か悪態奉つたのを有難く愛用していただくら面白い。

三浦社長がこんな性格だから、お蔭で社の財政は火の車。パン屋の借金半年、肉屋にも二、三ヶ月分たまったろうと言つた調子であつた。

パン屋のロシア人は毎朝五時か六時に配達に来るらしいが、こつちの起さるのが八時頃だから私が退社するまで、とうと顔を合ひなかつたが、このパン屋さんには共産主義者にならず、お金持になつて、今では息巻か孫の代になり繁昌していることを祈る。

日伯購読者で気骨のある人達の協力は相當あつたようで、安田良一氏から白米の寄贈のあつたことを覚えてゐる。當時在伯邦人三万人、ブラジル時報発行部数三千三百部、日伯新聞一千百部であつた。

ブラジル時報社の工場を借り、輪瀕俊午郎氏に協力して、ブラジルで最初の年鑑もの「北西年鑑」が出来た。輪瀕氏が原稿、鈴木秀造氏が広告、私が活字という取組で出版にこぎ付けたが、あの頃は同僚が陸統としてノロエステの原始林を開拓し、希望に燃えて珈琲を植え始めた頃で、機運に乗じた記録の出版であつた。

農務局の畜産技師、石橋恒四郎氏が、農事通信社というものを興して、月刊農写版の農業雑誌を始めた。

仕事の内容は農業の統計記事や、農器具の通信販売、農業本の取次等、土地の周旋から、犬、猫の診断まで、よく働いた人で、イタケーラの開拓者でもあつた。日曜は家族連れで自分の家のレンガ積みに通つていた。

其廻りサベの丘に過ぎなかつたが、鈴木貞次郎氏は、それより十年前に米作地をさがして、そこを歩いた由、この二人とも、イタケーラの今日の繁栄は夢想もしなかつたろう。

私は、石橋氏の助手が去つたので、後任者の見付かる迄、寄食して働いたが、地方から「棉花栽培法」一冊送つて呉れど注文があると、農務局から無料配布の布レチンを送つて税金をもらつていた。

おしらせ

バストス週報は本号を以て本年度(七三年)の最終号といたします。新年号は三十一日に発行の予定で、週報社

御礼

金一封也

此の度御尊父故吉浦秀次郎様の御不幸、さぞかし御落胆の御こと、謹んで御悔み申上ます。御葬儀の節前記の御寄贈深謝致します。

バストス聖母婦人会  
吉浦家様

求む

養蚕歩合で働くご家族

当方イヌビア駅より一キロのところ、面積五アルケール、菜園あり。住宅出来上り十坪X七坪。バラコンは只今建築中です。御希望のお方はどうぞ左記へ御越し下さい。イヌビア駅より一キロのところ

藤田農場  
郵便二十七番・電話〇三二番

FABRICA GRANITO

Av. Rio Branco 5/11 C. Post. 23, Fone, 515  
ADAMANTINA SP.

大西文吉  
大西石碑工場

日本式及ブラジル式  
胸像 石燈籠  
墓碑 記念碑  
石 白もち白  
石材美術彫刻類一切製作  
古い墓の修理も致します

アマンチナ市リオフランコ大通り  
電話 二二三番  
電話 五一五番

# Aviso de Cine Bastos

十二月二十三日(日)九時半 二十四日(月)八時  
 松竹 旅の重さ 高橋洋子 横山リ工 岸田今日子  
 天然色 天照色 高橋悦子 中川加奈 三国連太郎  
 家もすくた、学校も捨てたノママ、私は旅行に行つて知つたわん、夢とセクスと自由とを、

十二月二十五日(火)二十六日(水) 両夜とち八時  
 東宝 味噌汁と女 池内淳子 田村正和 東野英治郎  
 然色 川崎敬三 田中邦衛  
 佐藤慶 市原悦子 北村和夫  
 味噌汁の香、ほのかに香にこめる女の恋ひと哀しみ、五所平之助監督不朽の名作

十二月二十八日(金)八時 二十九日(土)九時半  
 松竹 可愛悪女 范文雀 瀧田裕介  
 然色 生田悦子 宮川和子  
 森次浩司 中丸忠雄  
 范文雀の香が妖しく添えるセクシマル サマヤンスへの御招待、

十二月三十日(日)九時半 三十一日(月)八時  
 東映 経度 谷 隼人 大原麗子  
 然色 渡瀬恒彦 迎見まり  
 大信田礼子 梅宮辰夫  
 やめて、... 迎見マリのヒント曲メロデーにくぐわれてルイボーイが見せるテクニク

一月一日(火)マチネ二時 夜八時  
 東宝 卒業旅行 山添多佳子 小泉 伝  
 然色 四方晴美 桂小金治  
 團令子 甄 珍  
 愛は河色、美しい金髪をなびかせて緑の高原を駆けめぐる恋の冒険旅行、

一月三日(木)マチネ 午後二時(敬老会御招待) 夜八時 二回興行  
 映画 紀の国屋又左衛門 高岡浩吉 北上弥太郎 中村玉緒  
 松竹 森美 樹 近衛十四郎 藤田進  
 伯光と 尾上菊若一行 新作舞踊、バレエ・盛沢山のプログラム、大津波画と共にお愉しみ下さい。

ナタール。年末・お正月用品のお買物は  
 毎度御引立に預って居ります。前山商店で  
 どうぞ

内外雑貨 一切 新入 荷  
 セルベージ、清凉飲料水 日本酒 洋酒等  
 日本品、海苔 籠づめ類 多量入荷、  
 年末奉仕として御得意様には特別の値段で差上  
 げます。何卒今年末は当店を御利用下さい。

# CASA MAEYAMA

プレゼント ティー ウォールガス 街 二八一 番地  
 内外雑貨 卸小売 前山商店

電話 二二三 番